

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	6月	5日	(記入者) 西田裕美	
取材参加者	石井	井本	小倉	大谷	久門
	西田	三谷	本井	横山	
取材対象先	奈良市：春日大社の桂昌殿・春日大社四脚門 附 土堀 2棟				

所在地	奈良市春日野町160				
所有者(取材 対応者)名	春日大社 舘 俊秀 管理室長		連絡先 0742-22-7788		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：春日大社				
市町村 指定文化財	彫刻	軀	名称(指定年月日)		
	建造物	2棟	春日大社桂昌殿 2001(平成13)年3月1日指定、春日大社四脚門 附 土堀 2棟 2001(平成13)年3月1日指定		
文化財 指定理由	桂昌殿は祭壇と広間からなる平面構成や祭壇廻りの意匠に特色のある祈禱所の遺構として貴重。四脚門は正規の構造手法からなり、17世紀前半の建立とみられる。近世初期の四脚門の好例として価値が高いもの。(奈良市HP参照)				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	桂昌殿と四脚門には避雷針が取り付けられ、さらに桂昌殿には放水銃も近くに設置されている。	設備があり、人が常駐する施設のそばで安心である。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	桂昌殿にはアライグマやイタチなどが来るようだが特に被害はない。四脚門の木材には古いキクイムシの跡などがあるが、シロアリの被害はない。	特に無い。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	桂昌殿は2003(平成15)年度から2004(平成16)年度にかけて、四脚門附土堀2棟は2005(平成17)年度から2006(平成18)年度にかけて、ともに奈良市補助事業として修理が行われた。桂昌殿については、2023(令和5)年秋の奈良市文化財課による点検により修理の運びとなり2024(令和6)年3月から8月にこけら葺きの屋根の全面葺き替えが行われた。一般に昔のこけら葺きの屋根は20～30年持ちこたえることができていた。近年は榿(さわら)が採れなくなってきて杉を使用しているため、20年が限界とのこと。桂昌殿には社寺の屋根工事の会社から20代～50代の職人さんが来て作業にあたっている。お若い職人さんもいてくださるのは50年ほど前から文化庁が職人育成を援助してきたことにもよる。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

桂昌殿の屋根の修復工事の現場を見せていただいた。大部分は長さ30cm、幅10cm、厚さ3～4mmの長方形のこけら板を3～4cmずつずらしながら竹釘で留めていく。屋根のカーブの部分は水に浸して柔らかくしたバチ形のこけら板を使う。職人さんがそれを曲げたり切り落としたりしながら見事に形作っておられた。肌色の板がずらりと並び、面が接する部分は優美な曲線でまとめられた屋根を間近かに見てその美しさに見とれた。「文化財は、現在私たちが手にしてしまうと自分達の物と勘違いしてしまいがちだがそうではない、先人たちから引き継いだもので次に大切に渡さなければならない」というお話に気持ちが引き締まった。

市町村指定文化財取材票《裏》①

取材日	2024年	6月	5日	(記入者) 西田裕美	
取材参加者	石井	井本	小倉	大谷	久門
	西田	三谷	本井	横山	
取材対象先	奈良市：春日大社の桂昌殿・春日大社四脚門 附 土堀 2棟				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 春日大社桂昌殿

文化財（正面写真）	曲線部も美しいこけら葺きの屋根
	
内部東面の祭壇	屋根の形状に合わせて板の形を整える職人さん
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入
<p>桂昌殿は、将軍徳川綱吉の生母桂昌院が「天下泰平之御祈禱(てんかたいへいのごきとう)」のために寄進した祈禱所で、1699(元禄12)年の建立。西回廊に開く内侍門の北西に南面して建つ。東西に長い建物で、東端1間に左右両方に脇間を付けた祭壇が設けられている。全体に住宅風の落ち着いた意匠で、祭壇前面上方には独特の曲線をもつ材を入れている。総じて上質な建物で、境内の構成要素としても重要。</p>	<p>春日大社は平城京の守護のために創始され768(神護景雲2)年、称徳天皇の勅命により本殿が造営された。国家鎮護の社また藤原氏の氏神としても知られる。元禄期は幕府の援助により南都寺社の復興が進んだ時期で、これは桂昌院と護持僧隆光の意向が強く働いたとされ、桂昌殿の寄進はこうした徳川家の南都社寺保護を物語るものである。桂昌院は1697(元禄10)年に鑄銅製立燈籠も春日大社に寄進している。</p>

市町村指定文化財取材票《裏》②

取材日	2024年	6月	5日	(記入者) 西田裕美	
取材参加者	石井	井本	小倉	大谷	久門
	西田	三谷	本井	横山	
取材対象先	奈良市：春日大社の桂昌殿・春日大社四脚門 附 土塀 2棟				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 春日大社四脚門 附 土塀 2棟

四脚門と左右の土塀	四脚門(横から)
 <p data-bbox="193 891 644 925">反り増しがある地垂木と飛燕垂木</p>	 <p data-bbox="831 891 1219 925">優れた意匠の見られる板蛙股</p>
 <p data-bbox="169 1032 384 1066">地垂木 (じだるき)</p> <p data-bbox="357 1084 655 1117">飛燕垂木 (ひえんだるき)</p>	
<p data-bbox="252 1361 584 1395">文化財の由緒などを記入</p> <p data-bbox="124 1402 695 1711">春日社に所在した興福寺参籠所のひとつ「上ノ屋(かみのや)」の門を、明治時代に、桂昌殿とその背後の増築建物(当時、新築された社務所)との正門として移築したと伝えている。また、同じく春日社に所在した興福寺参籠所の「安居屋(あんごや)」の勅額門であった可能性もある。左右に取り付く土塀は四脚門移築時のものとみられるが、四脚門とともに境内を構成する上で重要な存在として附指定となった。</p>	<p data-bbox="715 1361 1329 1395">所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入</p> <p data-bbox="715 1402 1329 1711">春日社の境内には興福寺の子院が複数設けられ、興福寺の僧侶が仏教の研鑽を行っていた。1868(明治元)年に出された神仏分離令により春日社内の仏堂は全て廃された。現在に残る遺構は、この四脚門の他には、西新談義屋(西之屋)経蔵であった重要文化財 旧春日大社板倉(円窓)が知られるのみである。安居屋(あんごや)は明治維新まで現在の祈祷所一帯にあり、築地塀に囲まれ勅額門や唐門があった。</p>